

〈実践報告〉

同志社女子大学英語英文学会 2018年春の卒業生対象セミナー 「英語で京都を案内しよう！」

千代間 泉

Abstract

This seminar shares how to show travelers from overseas around Kyoto in English with a national government licensed guide interpreter.

First, the characteristics of a guide interpreter were introduced, as well as effective preparation for working as a guide. Second, a model tour was conducted in class in order for the participants to understand tour operations, basic information of Kyoto city and historical places such as Kyoto Gyoen National Garden and the Imperial Palace. Appropriate English phrases and sentences were presented in the session.

A survey was conducted to clarify what kinds of obstacles there were for the participants to overcome when guiding, and to establish whether the motivation to be tour guides increased or not after the seminar. The results clearly showed that the participants did indeed have obstacles, such as insufficient knowledge of Japanese culture and history, and low English ability. It was suggested that studying daily and the actual guiding experiences would help participants to enhance the necessary practical expressions in English.

Tour guides are one part of the hospitality industry. It is ideal for both guests and guides to have a 'win-win' mindset to share a joyful and enjoyable time together by respecting, accepting and understanding their cultural differences.

1 はじめに

近年日本では、訪日外国人旅行者が急増し、英語で観光案内する機会が増加している。京都市産業観光局観光 MICE 推進室によると、平成29年度の京都市内での延べ宿泊人数は2,444万人、前年比13.7%増で過去最高を記録した (n. d.)。同志社女子大学英語英文学会では2018年春に本学卒業生対象のセミナーを行い、現役の全国通訳案内士の仕事内容、具体的な京都の地理、文化、歴史に関する概要の紹介をモデルガイディングを含めて行うセミナーを実施した。私は文学研究科英語英文学専攻（修士2年、2018年当時）に在学中の社会人学生で、全国通訳案内士でもある事から講師を務めた。私は日頃から自身の全国通訳案内士としての能力向上と、それを目指す人たちの手助けにもなりたいと思っており、訪日外国人旅行者に対する的確で内容ある英語での説明の仕方を研究している。

コミュニケーションツールである英語を使って、京都をより具体的に魅力的に伝える効果的な方法、英語の言い回し、英語での専門用語を獲得する事のみならず、京都の歴史や建造物についてスキル向上の為の効率的、具体的な学び方を知りたい、と思う参加者を対象にセミナーの内容は作成された。

2 セミナーの内容

本セミナーは2018年6月23日（土）の13：30～17：00まで同志社女子大学楽真館006号室にて行われた。第1部は室内での講義と質疑応答、全国通訳案内士とはどのような職業か、実際の仕事内容とどのように日本の事象を英語で説明しているかを、京都の基本情報を例にとってスライドを使用し解説した。第2部は京都御苑、京都御所内で講師のモデルガイディングを見て、実際の英語ツアーを体感し、参加者自身のやる気向上につなげる為、実際の英語ツアーを体感する予定であったが、雨天の為主催者より外出はなしと発表された。そのため引き続き室内で、観光箇所の写真などを示しながらのガ

イディングと説明を行った。



図1 セミナーの様子（同志社女子大学英語英文学会 facebook より）

2-1 第一部 全国通訳案内士の仕事

通訳ガイド制度は、平成30年1月4日に施行された改正通訳案内士法において、「通訳案内士の名称が「全国通訳案内士」となるほか、通訳案内士の業務独占規制が廃止され、資格を有さない方であっても、有償で通訳案内業務を行える」（国土交通省観光庁、2019）ようになった。全国通訳案内士にとっては危機的な状況に見えるが、国家試験に合格したという、一定の外国語能力と観光に関する質の高い知識がある事は、現在の所、仕事を得る上でプラスに動いているように感じている。

先ず多岐にわたる仕事内容（①旅程管理、②通訳案内、③接客サービス）について述べる。

①旅程管理はツアーコンダクターとして安心安全な旅行を担保し、②通訳案内では平易な言葉遣いで初めての異文化に触れる外国人観光客（以下観光

客と呼ぶ) が理解、納得しやすいようコミュニケーションを取り、地元の人と観光客を繋ぐ潤滑油として、英語や外国語を用いて橋渡しをする。③接客サービスにおいては、歩くコンシェルジュとして観光客の願いにできるだけ沿える地元の情報(食事箇所、快適なトイレ、文化体験、名産品等)を駆使し、旅行中、心地よく過ごせるように配慮する。3つの役目が相互に作用し合って、この仕事は成立する。

工作中的の基本的な態度として、緊張すると相手にもそれが伝わり、楽しい旅行が阻害される。しっかりと業務内容をこなしながら、観光客と共に楽しみ、感動する心を持つ事が大切だ。自分自身の人生経験、今までに得た知識、趣味、家族、仕事はそのまま役に立ち、共感を得る事が出来るので、観光客の興味に伴い活用すると良い。

仕事の準備方法について、訪問予定の寺社仏閣や見学箇所の見学、下見を行い、昼食なども場所、味も含めて確認を行い、当日迅速に動けるように予行演習を行う習慣があれば、当日は観光客がより快適で、自分も落ち着いてガイドングできる。

次に業務に必要な知識の効率的な取り入れ方を述べる。参考文献は、行く先々での日英パンフレット類、ホームページ、直接の聞き取り、該当する箇所が書かれている観光分野の書籍、ガイドの為の参考書、日々の新聞の内容を切り取り、中高生の歴史、地理の教科書類、テレビの旅番組など多岐にわたる。常に日ごろの情報にアンテナをはり、関係ありそうな情報を書き留める。度々観光客に質問される事(FAQ)、予想される質問、重要な事柄について、一つずつ内容を理解し、英語でまとめ、「知識の小箱」を作って、本番の時に随時発言できるよう準備する。又「It is said…」、「I've heard…」、「Some old people in Kyoto say…」という婉曲な言い方を用いて、証拠が100%取れなくても、説明しやすく、ある程度正しい情報を伝える事ができる。

続いて異文化コミュニケーションに関するFAQや気を付ける事の実例を

示した。例えば「日本人はなぜマスクを着用するのか？」という質問がある。これについては、英語圏の観光客の「着用している方が怖い顔を隠すのは失礼」との考えと、日本人の「病気の時はしない方が失礼だが、皆に病気を移さない為のエチケットだ」という異文化理解を深めて頂く事や、京の由緒ある住宅や伝統工芸施設訪問の際には「白足袋」に準じた靴下を持参する必要がある。この事は、ガイド自身が気をきかせ、前日に観光客に「訪問先を美しく保ち、敬意を払う大切な京都の訪問ルール」である、と説明しておく。そうする事により、観光客に靴下を持参してもらえるよう導くのである。

2-2 第2部 実際の英語ツアーを体感

京都という具体的な都市の基本的な情報に関して、最初に必要な情報、魅力、説明等が具体的な文例を示し、解説した。既存の英文を丸覚えするより、自分で集めた情報を取捨選択し、まとめ、理解して自ら英文に創り出すとしっかり覚えられるし、伝えられる。

始めに千年の都の歴史と文化（文化財、世界歴史遺産、大学、伝統と先進技術産業、ノーベル賞）、地理（四神相応の地、山に囲まれた京都、碁盤の目）、現在の首都東京との比較（建物の高さ、景観、看板条例）、をモデル英文で示して説明し、質問を受けた。その後、引き続き室内で京都御苑、京都御所内の地図、写真を用い、お客様を実際にガイドングする際に与える基本的な情報、導線（御所入場時の保安検査、無料荷物預け等、御所内でのガイドングポイント）を短い平易な英文で示し説明した。京都御苑や御所で自分だけが観光客に伝えられる独自のテーマは何か、それに基づく説明の工夫、並びに観光客の興味に合わせて明確に説明する事が大切である。

3 アンケートの実施と研究の問い

本セミナーではアンケートが実施され、参加者がどのようなきっかけでこのセミナーに参加したのか、通訳案内する際に不安や障害はあるのか、全国

通訳案内士が実際に自身の経験やスキルを話す事によってそれは改善されるのか、モチベーションは向上するのか、等について調査が行われた。

この度の発表報告では研究の問いを、1. 英語で通訳案内するときの障害は何か？ 2. セミナーを受けて参加者のモチベーションは向上したか？に焦点をあてて分析を行い、考察する。

3-1 アンケート調査

前日に大学院生の協力者3名を前にセミナーのリハーサルを行い、質問紙について不備や不明点を挙げてもらい、改善が行われた。

当日、セミナー開始時に参加者に対して説明を行い、質問紙記入を依頼した。質問紙はセミナー終了後に回収され、39名中38名の同意と回答を得た（回収率97.4%）。

質問紙の設問の回答には複数選択回答と、5段階の間隔尺度(Likert-scale)（「全く思わない」、「思わない」、「どちらとも言えない」、「思う」、「強く思う」）を設けた。又その後には自由記述欄を設けた。

3-2 参加者

学外に公開されたセミナーではあったが、参加者は全員女性で20代～60代までの39名であった。そのうちアンケート回答者の38名の内訳を表す。

参加者の年代別内訳は20代が4名、40代が5名、50代が25名、60代が4名であった。20代から60代まで幅広い年齢層の参加者があったが、30代の参加者は皆無で、50代の参加が多かった。

(図2)

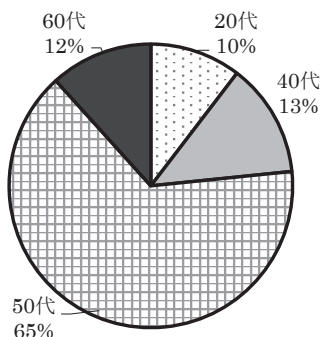


図2 参加者の年代層

参加者の職業は、会社員が10名、主婦が9名、教職員が6名、公務員が2名、学生が1名、自営業が1名、その他10名であった。1名が2つの職業に当てはまったとして、合計39名となっている。全国通訳案内士と明記した方が4名あったが、職業の分類として、自営（個人事業主）、教師、

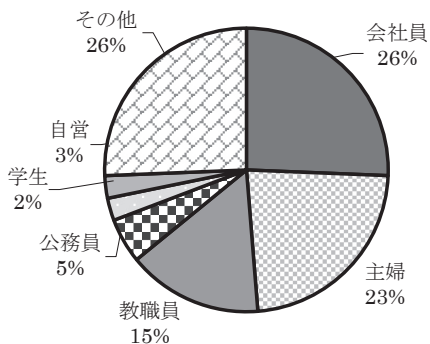


図3 受講者の職業

主婦（の副業）、その他等、その人自身の感覚によって、職業の記載が分かれたと考えられる。大学、大学院での専攻は記入必須事項ではなかったが、英文学のほかに家政学（2名）、コミュニケーション学域との明記があった。（図3）

本セミナーを知ったきっかけについて、「英語英文学会発行のちらし」が12名、「人から聞いて」が12名、「学会のホームページ」が6名、「学会のfacebook」が5名、「学内の立て看板」が2名、「その他」が6名であった。その他については、同女のメルマガを見た（2名）、友人に誘われた、講師から案内があった、講師のブログを偶然見て、のコメントがあった。（図4）複数回答を含む。

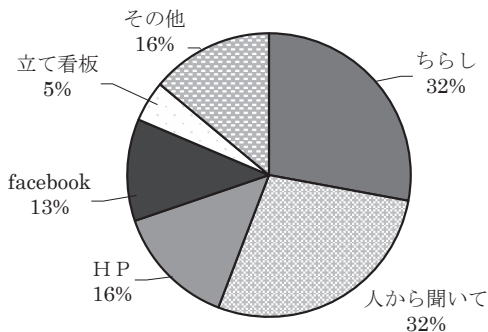


図4 本セミナーを知ったきっかけ

参加の動機について、コメントを分析した結果、以下の単語に分けられた。

「通訳案内士（ガイド、通訳案内）」に関する単語が13、「英語」が7、「京都」が8、「御所」が2、「東京」が1、「外国人」が5、「興味」が14、「楽しそう」が2である。『英語で京都を案内しよう！』の呼びかけにひかれて参加した方のコメントのように、タイトル通り、京都や場所を特定して、英語で案内したい人が集まった事が明らかになった。

「全国通訳案内士の資格を取得しスキルアップを求める」、「御所の案内のポイントを知りたい」、「家族のインバウンド事業の手伝い」という具体的なニーズのコメントがあった。又、「通訳案内法改正を知り、興味がわいた」、「ホスピタリティの仕事の役に立てたい」、「将来ガイドになりたい」、「外国人観光客の役に立ちたい」、という将来の自分の活動の為に参加した旨のコメントがあった。

4 結果

4-1 外国語で外国人観光客を案内した経験

38名中25名が実際に案内した経験があったと回答した（65.8%）。

「ある」と回答した25名の参加者がどのような形で案内したかは図5の通りである。

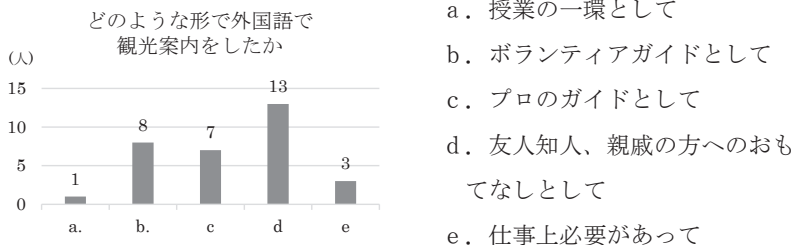


図5 観光案内の経験（複数回答）

その他、ホームステイの受け入れ、という回答があった。

4-2 ガイドする際の楽しさと難しさ

4-2-1 楽しさ

観光案内の経験がある参加者に、外国語で観光案内することは、楽しいかどうかを尋ねた。その結果、「どちらともいえない」が1名、「思う」が14名、「強くそう思う」が11名であった。平均値は4.38、標準偏差は0.57であった。

その理由についてのコメントでは、楽しい（4件）、嬉しい（3件）、喜び（3件）の単語があった。「自国の紹介はやりがいがある」、「ゲストに喜んでもらった」、「自国の歴史や文化に興味を持ってもらえた」（2件）、「お礼のメッセージを受け取った」、「喜んでもらえた」（2件）、又それが「自分の喜び」だとのコメントがあった。その他「世界を直接感じる事ができる」、「自分の説明でも関心を持って聞いてくれる」、「文化の相違を認め合い、共通点を感じ、時間の共有ができる」、「ゲストが笑顔で楽しんでいる」とのコメントがあった。又「知らなかった事（名勝、寺社仏閣）が勉強できる」、「次はもっといい案内をしたい」などの、ガイドングを行った後、モチベーションが向上した旨のコメントがあった。

4-2-2 難しさ

観光案内の経験がある参加者に、外国語で観光案内する時に難しいと思う事はあるか、を尋ねた。

その結果、「どちらとも言えない」が3名、「思う」が14名、「強くそう思う」が9名であった。平均値は4.23、標準偏差は0.65であった。

「日本、京都、文化、歴史、知識、知識不足」という単語が13件出た。「歴史を忘れてしまい、聞かれても答えられない」、「文化背景を上手に説明するのは難しい」、「知識の無さを痛感する」、「知識の改善がされない事を実感」、「あまりにも歴史を知らなさすぎる」、「質問されてもそれについての知識がない」とのコメントである。「表現を迷う事がある」が3件あり、「お客様の興味、好み、ニーズへの対応の難しさ」が4件あった。「お客様の興味はどこにあ

るのか」、「相手の興味に沿った案内をしなければ」、「グループ内のメンバーの興味に差がある」「相手のしたい事がうまくわからない時」等である。英語での説明に関しては、「英語と日本語のニュアンスや意味合いの違い、言葉探しが難しい」、「特別な専門用語があり、語学の単語が不足」、「英語で説明が難しい（2件）」などのコメントが上がった。その他「いつも楽しいとは限らず上手くいかない時は落ち込む時もある」、「ゲストのニーズに応えるのはなかなか大変」などのコメントがあった。「全国通訳案内士であり、観光案内を難しいと言うべき立場ではない」というプロフェッショナルな立場でのコメントがあった。

4-3 モチベーションの向上

本セミナーを受講して、実際にガイドングを行う為のやる気が向上したかどうかを尋ねた。

その結果、「どちらとも言えない」が5名、「思う」が23名、「強くそう思う」が10名であった。平均値は4.13、標準偏差は0.62であった。

向上した、と分類されたコメントは、「具体的な準備になった」、「勉強になった」、「楽しく聞いた」、「今後の機会」、「自信がついた」、「前向きになった」、「実際やってみたい」、「楽しそう」、「長年の夢をいつか叶えたい」、「できそうな気持ちになった」、「日本を楽しんで頂ければ自分も楽しいと思う」、「日本を好きになって帰ってほしい」、等のコメントがあった。

全国通訳案内士から実際に話を聞いた事について、「初めて聞いて良かった」、「生の声」、「もっと学者レベルに日本の文化や歴史を、ネイティブレベルの英語で説明しなくてはいけないものだと思っていたが、そういうことではないと実感し、自信がついた」、「親しみを持った」、「人生経験が多い方が役に立つ」、「励まされた」などの記述があった。

また一方、慎重なコメントは、「自分にはあまり向いていないように思う」、「実際の機会が今後あるかわからない」、「どんな質問が来るかかなり不安」、

とのコメントがあった。

5 考察

5-1 英語で通訳案内するときの障害

今回のアンケート調査ではガイディングを経験した事のある参加者に対して、何をガイディングする時の障害と認識したか、について尋ねた。

すると、ガイディングの為の知識不足を実感し、何をどのように理解していけば、明確にポイント立てて説明できるのかを迷う様子が明確になった。その上英語に置き換えて話す事について、自身の英語能力の不確かさと専門用語の知識不足、英語と日本語のニュアンスの違いの難しさを感じ、日本の深い歴史的背景や、日本人独自の考え方を良く理解してもらえるように話す事の困難さが挙げられた。

プロの全国通訳案内士のコメントからは、知識不足や英語表現等の障害を一段階乗り越えた、相手の興味、又必要とされるガイディングを推量し、的確に対応する難しさが指摘された。それに合わせて説明の切り口を変える余裕が明確になった。

ガイド未経験の参加者からは、自分にガイドの適性があるか、質問に上手く答えられるだろうか、実際にガイディングできる機会が作れるだろうか、という不安（障害）がコメントから見受けられた。仕事の機会については、このレポートでは触れないが、「適性」や「難しい質問」については自分の尺度によって感じられるものであり、経験者も同様に日々障害に感じる事である。観光客溢れる京都ならではの、自然に外国人観光客とさりげない会話やちょっとした助けをした際に、モチベーションの向上を感じれば、適性がありガイドを目指す出発点だと考えられる。「京都を和服で散策するのが好きでそれを今後生かしたい」、という参加者のコメントには、自分の好みや個性を生かす実現可能なガイディングの始め方が示されている。

5-2 セミナー受講後のモチベーションの向上

参加者の実際にガイドイングをしたい、というモチベーションはこのセミナー受講により、向上した事が明確になった。参加者はセミナー中、楽しく説明を聞き、新しい知識を得、自らの効率的な勉強方法の方略を見つけた事がコメントより明らかになった。又、現役の全国通訳案内士の生の声を聴き、出来る事から学んでそれを生かす事の大切さが理解された。具体的なガイドイングの為の勉強としては、自分の特長や性格、好み、興味を持つものを手掛かりとし、簡潔な英語で表現を目指し、独自のガイドイングにまとめる、という作業がもっとも効率的であり、自信を持ってガイドイングできる事につながる。

ガイドは時には黒子、時にはリーダーとなって、観光客の快適な旅行を支える仕事であり、温かい「おもてなし」から発達したホスピタリティ産業に属する。乾(2018)によると、この産業において、「観光において人と人が出会い、ホスピタリティに満ちたやり取りにより、相互が「しあわせを感じる」場が生まれる。これらが機能性や利便性、費用対効果では計ることができない観光価値を創り上げることを忘れてはならない。」(p.139)とする。過度な緊張をほだき、ガイドイングというもてなしを行い、お客様と一緒に時間を楽しむ事は、自分も多くの満足を得る事のできる異文化理解と交流のwin-winの関係であり、継続的なガイドイングと自己研鑽の為のモチベーションである。

今回のアンケート結果で、英語が好き、京都や歴史が好き、という思いが、英語で京都をガイドイングする際の障害を乗り越えるモチベーションの1つである事が明らかになった。ガイドイングの機会がある度に、ツアー中に交わした会話の中の実用的な英語のフレーズを思い出し自分のものにする事、又良く出る質問の内容をまとめておき、次の機会に使うようにすると、不安の解消に役立ち、モチベーションがその度上がる、と経験上推量される。

セミナー中に講師自身の人生の歩みと経歴について話す機会があり、これ

に対しての反響が複数みられた。中学生の頃、鳥飼久美子さんのような通訳になりたいと思い、英語学習のモチベーションにした事、高校時代米国ハイスクール留学中に、日本の事について何も知らず話せない自分に気づいた事、子育て中に社会から取り残されたような感覚になった事等である。国家資格に関しては、何回も受験し挫折を経験したが、あきらめきれず再度挑戦し、やっと念願のガイドとして働けるようになった。現在も自分自身の知識と英語不足を毎回感じるが、毎回観光客から教わりその経験を次に生かしたいと思う事、毎回予期せぬ希望が発生し、対応に苦慮する事はあるが「伝えたい」との思いは相手に伝わる事、などのやりがいがある。そのような話しが思いがけず参加者に親しみを持たれ、自分の人生経験と重ね合わせ、励まされ、やる気の向上に貢献した傾向がコメントからみられた。

6 セミナーの限界

本セミナーは当日悪天候の為、主催者より参加者の健康、安全を最優先としてフィールドトリップが中止となった。「雨でも決行して欲しかった(2件)」という意見があった。今後フィールドトリップを含むセミナーでは、日帰り旅行傷害保険や同意書等をもって、安全に留意した実施に対応する事が可能だと思う。

又、本セミナーは、より沢山の参加者に興味を持ってもらう為に、全国通訳案内士を通して「英語、京都、ガイド」という広い観点から講義がされ、今後のガイディングを始めるきっかけ的なものであった。「もっと知りたい」や「限られた時間内なので、すべて把握したとは言えない」という、大きなテーマを時間内に丁寧に説明する難しさがコメントに表れた。

7 おわりに

同志社女子大学のリベラル・アーツの教育理念は「専門分野の知識や技術の修得はもちろん、多様な分野の学問を修めることで広い視野を養い、物事

の本質を捉える力を身につけ、ゆたかな世界づくりに寄与する女性を育てています」(同志社女子大学ホームページ、2019)である。すべての職業と同様、通訳ガイドの世界は、幅広い日本や世界に関する知識と語学力、異文化コミュニケーションへの理解、しっかりとした自分の考えを持って行動し、他者を助ける、という、リベラル・アーツを実践する職業でもある。

今回、ガイディングに興味のある未経験者とガイディング経験者から、英語に重きを置きたい、又は内容(京都、歴史文化)を重点的にしてほしい、など多岐にわたる学びの希望が出された。「定期的にしてほしい(3件)」という意見もあったことから、モチベーションの維持と、自己実現に向かって前進する為に、何らかの形で具体的かつ継続的な勉強の取り組みが望まれる。

今後の研究について、このセミナーで参加者に協力頂いた貴重なアンケートの未分析分を合わせて考察し、論文にまとめて投稿する予定である。

参考文献

- 乾 弘幸 (2018). 『入門観光学』(竹内正人、竹内利江、山田浩之の編著) 京都: ミネルヴァ書房.
- 京都市産業観光局観光 MICE 推進室(n. d.). 「平成29年京都観光総合調査結果【概要】」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/cmsfiles/contents/0000240/240130/29gaiyou.pdf> 最終閲覧2019年3月16日.
- 国土交通省観光庁 (2019年2月4日最終更新). 「通訳ガイド制度」
<http://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kokusai/tsuyaku.html> 最終閲覧2019年3月11日.
- 同志社女子大学 (2017). 「同志社女子大学の教育理念」
https://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/educational_ideal 最終閲覧2019年3月11日.
- 同志社女子大学英語英文学会 facebook (2018年6月26日).
<https://www.facebook.com/Egakkai.DWCLA> 最終閲覧2019年3月20日.

付録

同志社女子大学英語英文学会主催OGセミナー 「英語で京都を案内しよう」参加の皆様へ アンケートのお願い

本日はお疲れ様でございました。この度は講師としてお話しさせて頂く機会を頂き感謝いたします。

このアンケートは、全国通訳案内士がセミナーの講師として、参加者に有益な経験や観光案内に関する情報を提供し、参加者の外国語による観光案内技術の向上と、更なる動機付けの増進に寄与できるか、を研究テーマとして作られました。

レポートの為に、全体としてデータを使用することがありますが、結果に関しては統計処理を行いますので個人を特定するような扱いはしません。またこのデータは研究目的以外には使用しません。アンケート参加は個人の自由意志に任されます。最終ページに同意項目がありますのでチェックをしてください。ご協力よろしくお願い致します。

アンケート責任者

千代間 泉 同志社女子大学大学院文学研究科英語英文学専攻

連絡先 ibk002@dw.doshisha.ac.jp

1. このセミナーを知ったきっかけは何でしたか？○で囲んでください。

- a. 英語英文学会のチラシ
- b. 英語英文学会のホームページ
- c. 英語英文学会の Facebook
- d. 立て看板
- e. 人から聞いて
- f. その他 ()

2. なぜこのセミナーに参加したいと思ったかを述べて下さい。

3. あなたは今までに外国人を外国語で観光案内した事がありますか？

○で囲んでください。

はい いいえ

4. 3で はい を選択した方はどのような形で、外国語で観光案内をしましたか？ アルファベットを○で囲んでください。(複数回答可)

- a. 授業の一環として
- b. ボランティアガイドとして
- c. プロのガイドとして
- d. 友人知人、親戚の方へのおもてなしとして
- e. 仕事上必要があつて
- f. その他 ()

5. 3ではい、を選択した方へ、外国語で観光案内する時に楽しいと思う事はありますか？

1～5までの番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強くそう思う

6. 5でその番号を選択した理由を述べて下さい。

7. 3ではい、を選択した方へ、外国語で観光案内する時に難しいと思う事
はありますか？

1～5までの番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強くそう思う

8. 7でその番号を選択した理由を述べて下さい。

9. 本日のセミナーで全国通訳案内士の仕事内容を把握できたと思いますか？

1～5までの番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強くそう思う

10. 9でその番号を選択した理由を述べて下さい。

11. 本日のセミナーで学んだ観光英語（単語、フレーズ、内容等）の中で、今後実際に活用できる部分があると思いますか？ 1～5までの番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強くそう思う

12. 11でその番号を選択した理由を述べて下さい。

13. 本日のセミナーで外国人を外国語で観光案内するモチベーションが向上しましたか？

1	2	3	4	5
全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強くそう思う

14. 13でその番号を選択した理由を述べて下さい。

15. 本日のセミナーで全国通訳案内士から話しを聞いた事は有益でしたか？

1	2	3	4	5
全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強くそう思う

16. 15でその番号を選択した理由を述べて下さい。

17. 本日のセミナーで最も興味深かった点を○で囲んでください。
- a. 全国通訳案内士の仕事内容
 - b. 京都の基本情報を英語で説明
 - c. 京都御苑と京都御所の英語ツアー
 - d. その他
18. 17で選択したアルファベットの理由を述べて下さい。
19. 本日のセミナーの感想、その他自由に述べて下さい。
20. ○で囲んでください。
- 女性 男性 他
21. 年代を○で囲んでください。
- 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代～
22. ○で囲んで下さい。
- a. 会社員 b. 自営業 c. 公務員 d. 学生 e. 主婦
 - f. その他
23. 職業や学部などをお書き下さい。

258 同志社女子大学英語英文学会 2018年春の卒業生対象セミナー「英語で京都を案内しよう！」

同意項目のどちらかにチェックをお願いします。

- このデータを研究用に利用する事に同意する
- このデータを研究用に利用する事に同意しない

ご協力誠にありがとうございました。

千代間 泉 Izumi Chiyoma
E-mail: ibk002@dwc.doshisha.ac.jp